

## 1993年度日本気象学会総会議事録

場 所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

日 時：1993年5月18日 13時10分～14時30分

### 総会成立の要件：

通常会員（1993年5月17日現在3831名）の25分の1以上（154名以上）の出席及び委任状等を含めて5分の1以上（767名以上）の参加が必要（定款第38条）

### 議 事：

#### 1. 開会

大西晴夫庶務担当理事から総会成立の要件を満たしたことが報告され、総会の開会が宣言された。

#### 2. 議長選出

満場の拍手で、本大会委員長の小野俊行会員（気象庁予報部）を議長に選出した。

#### 3. 理事長挨拶

浅井富雄理事長から概略以下のような挨拶があった。

「気象学会春季大会は、昨日から気象庁と竹橋会館の4会場で開催されており、総数で338件にのぼる多分野の研究発表が活発に行われつつあります。大会が年とともに益々盛会になりましたことは、大変喜ばしいことであります。

近年、社会の高度情報化に伴い、気象情報に寄せられる一般の人々の要望は多様化しています。一方、気象の予測技術も進歩し、情報提供手段も高度化しています。このような状況にかんがみ、気象庁は時代の要請に適合した気象情報サービスの高度化を図るため、気象業務法の一部改正案を今国会に上程しておりましたが、さる5月13日に可決・成立しました。本学会は気象の教育・普及の立場から、この問題にもかかねてから関心をもってきたところでありますが、気象庁が気象業務法改正の具体化を行うにあたっては、気象庁に協力を惜しまない所存であります。

本学会に対する内外の要望も高度化・多様化しつつあります。これらに対応するためには、学会自体の組織・運営を見直し、学術水準の一層の向上に努めなければなりません。昨年来、理事会では役員体制の実状を吟味し、より柔軟にかつ強力で活動し得る理事選任方式について検討してまいりました。『天気』3月号に掲載されたように、これに対する成案が得られましたので、本日の総会でご審議いただき、ご承認たまわりますようお願いいたします。

皆様すでにご承知のとおり、本年7月に横浜国際平

和会議場で、IAMAP（国際気象学・大気物理学協会）の第6回科学会議がIAHS（国際水文学協会）の第4回科学会議と合同で開催されることになっており、あと2か月足らずに迫って参りました。実行委員会は懸命にその準備にあたっています。IAMAP 独自およびIAHS との合同のシンポジウムはもとより、WMO（世界気象機関）、IAPSO（国際海洋科学協会）、IAGA（国際地球電磁気学超高層大気物理学協会）との共催シンポジウムなど多彩な内容のものが企画されており、すでに1000篇近い研究発表が受理されています。今回の合同会議は、諸外国の第一線で活躍する多くの研究者と互いに知り合う絶好の機会であり、会員の皆様がこの好機を有意義に活用されることを期待しています。

最後に、本大会をお世話いただいている気象庁、とりわけ小野俊行大会委員長はじめ予報部の関係各位に心から謝意を表します。」

#### 4. 1993年度日本気象学会賞授与

学会賞候補者推薦委員会（田中正之委員長）を代表して、菊池勝弘理事が選定理由を報告。浅井理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。

なお、受賞者とその業績は以下のとおり。

鬼頭昭雄会員（気象研究所）

「大気大循環モデルを用いた大気の長期変動に関する研究」

木村富士男会員（東北大学）

「局地循環モデル開発とその応用」

#### 5. 1993年度藤原賞授与

藤原賞候補者推薦委員会（武田喬男委員長）を代表して、松野太郎理事が選定理由を報告。浅井理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。

なお、受賞者とその業績は以下のとおり。

山元龍三郎会員（京都大学名誉教授）

「近年における気候変動の実態解明および気候変動研究推進とその成果の社会への伝達」

柳井迪雄会員（カリフォルニア大学）

「熱帯大気の力学に関する研究」

#### 6. 1992年度事業経過報告

大西晴夫庶務担当理事から、理事会等出席旅費規定及び学会賞各賞受賞者に対する旅費支給規定を制定したなどの報告が行われた。

#### 7. 1992年度会計決算報告

岩崎俊樹会計担当理事から、会費値上げを先取りし

て単年度で400万円程度の赤字予算を組んであったが、決算では100万円強に赤字を押さえられたなどの報告が行われた。

#### 8. 1992年度監査報告

佐藤信夫監事から、4月20日に行われた監査結果に基づき、会計処理は適正に行われていることが報告され、事務局員の増員やOA機器の導入で管理業務が著しく改善されたなどの監査意見が述べられた。

引き続き、事業経過報告、会計決算報告、監査報告について議長が質疑・意見を求めたが発言がなく、賛成多数で原案どおり承認された。

#### 9. 役員選任に関する定款および細則の一部改正

木田秀次総合計画担当理事から、役員選任方法の変更に関わる定款および細則の一部改正についての趣旨説明があり、質疑・討論に入ったが出席者からの意見がなく、採決を行った。

この時点で議場を閉鎖し、出席者数等の確認を行った結果は、出席会員206名、委任状等による参加853名(出席会員に委任=42、議長委任=773、書面で賛否表明=38)、合計出席数1059名であり、総会成立要件を満たしていることが確認された。

採決の結果は、出席会員206名中、賛成204、反対1、保留1、出席会員への委任42名は全員賛成、書面による意志表示は38名中、賛成36、反対2、保留0、議長(白紙)委任は773名であった。

議長委任を賛成に加えることが議長から表明され、その結果、賛成1055、反対3、保留1となり、定款の改正に必要な、出席者(委任状等を含む1059名)の3分の2以上(706名以上)の賛成を得て、定款の一部改正は可決された。

また、細則の一部改正も出席者の過半数の賛成で可決された。

#### 10. 1993年度事業計画案審議

大西晴夫庶務担当理事から、総会資料に基づいて提案が行われた。気象集誌への投稿促進、春季・秋季大会への講演申し込み数の増加による大会運営上の問題、会費値上げの見返りとして研究会や夏季大学への補助金増額の予算措置をとったこと、国際交流基金からの補助制度の一層の活用などが強調された。

#### 11. 1993年度予算案審議

岩崎俊樹会計担当理事から、総会資料に基づいて提案が行われた。1993年度予算は、IAMP開催のために、

見掛け上、予算規模が大きくなること、会費値上げと研究ノート増収等により、これまでの累積繰越赤字285万円を解消できる見通しであることなどが報告された。

引き続き、事業計画案および予算案について質疑・討論が行われた。

(質問) IAMPのために日本船舶振興会から800万円の補助金収入があるが、説明願いたい。また、気象学会がIAMPに支出するのはいくらか。

(回答) IAMP・IAHS '93は1億5000万円の総予算のうち、5000万円を寄付金でまかなう予定で進めている。今回の補助金は、IAMPに関わる論文集の刊行という限定した目的に使用するという船舶振興会と気象学会の間の合意に基づいて決定されたものである。気象学会本来のIAMPへの支出は、今年度は318万円、これまでの合計総額では600万円である。

事業計画案、予算案の採決の結果、両案とも原案どおり賛成多数で承認された。

#### 12. その他

(意見) 総会資料を、きょうこの会場で初めて見せられても十分に検討できない。事前に配布すべきである。

(回答) 決算・予算関係は、3月末が年度末であり、それから監査等の必要な処理をして印刷に回すので当日配布しかできない。事業の執行状態や理事会が何を考え、何をしようとしているかは『天気』を見ていただきたい。定款の改正などの重要な議題は『天気』であらかじめ内容を公表し、理事会の考え方も記事にしている。不十分な点もあるかも知れないので、今後とも発言された趣旨を生かすよう心掛ける。

#### 13. 議長解任

総会の議事運営に関し、議長から出席者の協力に感謝する挨拶があり、議長は解任された。

#### 14. 閉会

大西晴夫庶務担当理事が、総会を閉会する宣言を行った。

総会議長 小野 俊行  
出席者代表 北出 武夫  
出席者代表 安田 昌弘